みやざき

JC NEWS 2026 AUTUMN MIYAZAKI

Vol.683



特別企画 ▶▶▶

2026 宮崎JC AUTUMN
75周年記念事業 清山市長特別対談
サボテン ～現役JCの皆さんへ～

JCI Miyazaki

75th 2026 Miyazaki

The 75th Anniversary of the JCI Miyazaki

■企画・編集・発行
JC News Miyazaki / Vol.683 2026 AUTUMN
一般社団法人宮崎青年会議所　ブランディング委員会
〒880-0865 宮崎市松山1-12-7大春ビル3F　TEL:0985-28-2522 FAX:0985-28-2466

75周年記念事業

市長特別対談

2026年8月24日(月)、宮崎JC75周年を記念し、宮崎市役所にて宮崎JC歴代理事長6人と清山市長との対談が行われました。
本座談会では、市長と青年会議所の直近の理事長が一堂に会し、これまでのまちづくりの歩みを振り返るとともに、現在の地域が抱える課題や可能性について率直に意見を交わしました。










75th
2026 Miyazaki

宮崎の未来と共に描く

宮崎市 第六次宮崎市総合計画 × 宮崎青年会議所 NEXT5

登壇者紹介 歴代理事長インタビュー

司会：はじめに、宮崎市長並びに歴代理事長のご紹介をさせていただきます。詳細につきましては配布資料をご確認ください。宮崎市長の清山知憲様です。

清山：宮崎市長の清山です。よろしくお願いします。

司会：続きまして、第70代理事長を務められました川越英和先輩です。

川越（英）：よろしくお願いします。

司会：川越先輩は「誰かがやるではなく、自分がやる」という当事者意識を大切にされていますが、その意識をメンバー全体に広げるために最初に取り組んだことは何でしょうか。

川越（英）：まず委員長の皆さんに最初にお伝えしたのは、「手法ありき」ではなく「どういう状態になってほしいか」という理想を意識してもらうことです。例えば「青少年事業でキャンプをしたい」となると、キャンプをすること自体が目的になってしまい、本来の目的が後付けになってしまいます。青年会議所（JC）は「明るい豊かな社会の実現」を目指して活動していますので、まずは目指すべき理想の姿を掲げ、それを達成するためにどのような事業を行うべきかを委員会で考えてもらいました。それが成果につながるという意識を持って取り組んでいました。

司会：ありがとうございます。続きまして、第71代理事長を務められました植松剛史先輩です。

植松：よろしくお願いします。

司会：コロナ禍という先の見えない状況の中で、最も悩んだことや、やって良かったと感じた取り組みを教えてください。

植松：2022年はコロナ禍3年目でしたが、1月からオミクロン株が拡大し、最初の新年会から中止を余儀なくされました。その中で「どうすれば実施できるか」をメンバー一同で考え抜きました。都度アプローチを見直し、知恵を出し合う時間を皆で共有できたことが、非常に良い経験になったと感じています。

司会：続きまして、第72代理事長を務められました川越大輔先輩です。

川越（大）：よろしくお願いします。

司会：1年間の活動を通じて、強い組織にはどのような要素が必要だと考えますか。

川越（大）：私の任期は「アフターコロナ元年」にあたり、様々な事業が再開していく時期でした。単に以前の形に戻すのではなく「アップデート（進化）」させることが重要だと捉えていました。青年会議所は発展と成長の機会を提供し、リーダーシップを育む団体です。リーダーの育成はもちろん重要ですが、それ以上に状況の変化に応じた「柔軟性」が必要です。そのため、当時は「アップデート～さらに自分たちも進化していこう～」というスローガンを掲げて活動してまいりました。

司会：ありがとうございます。続きまして、第73代理事長を務められました河野幸治先輩です。

河野：よろしくお願いします。

司会：未来を共創するために、宮崎青年会議所が最初に取り組むべきことは何だとお考えでしょうか。

河野：私が理事長を務めた年度は、「人手不足問題」をテーマに運動を展開しました。私自身、建設業を営んでおりますが、職人や技術者が減少しており、従来当たり前にできていたことが困難になる時代に突入しています。その中で、JCは20歳から40歳までの最も生産性が高い働き手世代で構成されています。この世代が行政と密に連携し、地域課題を解決する企画を形作っていくことが重要だと考えています。

司会：続きまして、第74代理事長を務められました野村翔悟先輩です。

野村：よろしくお願いします。

司会：スローガンである「全員力」を実現するために、最も力を入れた取り組みは何でしょうか。

野村：2025年度は日常生活が落ち着きを取り戻した一方、コロナ前のJC活動を知らないメンバーが大半を占めていました。そこで、団体の歴史やこれまで手掛けてきた事業を皆で学び直す場を設けました。1人でも多くのメンバーに事業に参加してもらい、人と人との繋がりを深めることを最重視しました。人との関わりこそが、個人の成長・団体の成長・地域の成長へと直接繋がります。そのため、委員長たちには事業内外を問わず

「周囲を巻き込むこと」を習慣化するよう働きかけ続けました。

司会：ありがとうございます。最後は第75代理事長を務められています山﨑隆太郎君です。

山﨑：本日はよろしくお願いいたします。

司会：今年度のスローガン「PLUS ULTRA」を一年間で最も体現したい場面はどこでしょうか。

山﨑：このスローガンには組織ブランディングの意図があり、対外的・対内的な双方の要素を含んでいます。近年、入会年数の浅いメンバーが増加したことで、「自分たちが本来何をすべき団体なのか」「他団体との差別化はどこにあるのか」という本質が曖昧になりつつありました。しっかりと自らの価値を示し、確固たる自信を持って行動してほしいという想いを込めて、既存の限界を超えていこうという姿勢を常に体現していきたいと考えています。





「第六次宮崎市総合計画」と「NEXT5」の背景と役割

司会：皆様、本日は「第六次宮崎市総合計画」と「宮崎青年会議所NEXT5」をテーマに、清山市長と歴代理事長の皆様にご対談いただきます。改めて清山市長にお伺いします。第六次宮崎市総合計画とは、どのような計画なのでしょうか。

清山：昨年度からスタートした第六次総合計画は、今後10年間のまちづくりの羅針盤となる計画です。将来の都市像として「挑戦し、成長する、開かれたまち（OPEN CITY MIYAZAKI）」を掲げています。宮崎は明治期に県庁所在地が置かれて成立した若い都市であり、従来から四国や九州他県など多様な地域から人が集まり発展してきました。単なる内向きなコミュニティに留まるのではなく、南国・宮崎らしく、人や経済、そして未来に対して『オープンな街』を目指します。人口減少社会を乗り越えるため、JCの皆さんや市民の皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。



第六次宮崎市総合計画とは

人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化に対応し、中長期的な展望を持って宮崎市の最上位のまちづくりを進めるための行政運営の基本指針です。

司会：宮崎青年会議所では、総合計画で示された地域課題や目指すべき将来像を参考に、今後5年間の行動指針となる「NEXT5」を策定されました。山﨑理事長にお伺いします。NEXT5を策定した背景と、総合計画を踏まえたJCの役割について教えてください。

山﨑：策定の背景には、単年度の活動で終わらせるのではなく、5年先を見据えて継続的に地域課題へ向き合う必要があるという強い想いがあります。総合計画を精読した上で、「行政にはできない、我々だからこそできる役割は何か」を徹底的に抽出し直しました。総合計画には宮崎市が向かうべき将来像が明確に示されています。私たちJCは、その計画の推進に最も近くで寄り添い、スムーズに進行するようコミットしていくべきだと考えています。NEXT5を指針として、行政・企業・市民の皆様と連携し、人と人をつないで新たな挑戦を生み出す組織であり続けます。

若者の定着・雇用創出

司会：ここからは共通する具体的テーマについて掘り下げてまいります。

最初のテーマは「若者の定着・雇用創出」です。清山市長、総合計画で人口減少対策が柱となる一方、若者の流出は続いています。行政としての最大の課題は何でしょうか。

清山：宮崎市が実施した中高生アンケートでは、約8割の若者が「宮崎で働きたい、あるいは希望する仕事があれば場所にはこだわらない」と回答しています。しかし現実には、県内就職率は高校卒で約6割、大学卒で約4割にとどまっています。課題は「地元企業の魅力を知ってもらうこと」と「魅力ある働く場を創出すること」です。宮崎市では本年度「経済部」を新設し、私自身も市内の高校を回ってキャリアに関する対話を行っています。また、企業の受け皿となる新たな産業用地につきましても、市内に約50ヘクタール確保することを目標に、現在積極的に取り組みを進めているところです。

司会：川越先輩にお伺いします。NEXT5で「若者が活躍できる宮崎」を掲げていますが、JCだからこそ実現できる取り組みは何でしょうか。

川越(英)：JCには若手経営者や地域のリーダーが集まっています。若者との交流や起業支援、企業見学、キャリア教育などを通じて、若者が宮崎でチャレンジできる環境を整えていきます。また、事業を通じて地元の魅力的な企業情報を発信し、若者が宮崎で働く未来を描けるよう後押ししていきます。

司会：清山市長、若者が「宮崎に残る」だけでなく「宮崎を選ぶ」地域になるために、行政とJCはそれぞれどのような役割を果たすべきでしょうか。

清山：行政の役割は、奨学金返還支援制度などの仕組みを含め、若い世代が生活し働ける基盤を整えることです。一方、JCの皆さんには若手経営者として宮崎経済を強力に牽引していただきたいと考えています。貪欲に事業を拡大し、利益を上げ、「行政をどのように活用してやるか」という強い企業家精神を持って提案していただくことを期待しています。



第70代理事長
川越 英和
スローガン
光明
～地域に光を灯す先駆者であれ～



第71代理事長
植松 剛史
スローガン
壱-ONE-
～新時代を描く新たなる一歩～

司会：植松先輩、青年会議所の立場からはいかがでしょうか。

植松：「NEXT5」が目指す根底は、人づくりを通じた地域づくりです。若者の定着は行政や単一の自治体だけで解決できるものではありません。行政が制度や環境を整え、企業が雇用を生み出す中で、JCは人と人をつなぎ「挑戦する機会」を創出する役目を担います。そうした機会を重ねることで、宮崎で夢を叶えたいと考える若者を増やす環境を、市民・企業・行政の皆様と共に築いていきたいと考えます。

子ども・若者の育成

司会：続いてのテーマは「未来の宮崎を担う子ども・若者の育成」です。清山市長、地域全体で子どもを育てる環境づくりにおいて、現状の課題と行政のアプローチについてお聞かせください。

清山：子どもを育てるには、自治会、子ども会、まちづくり推進委員会、JCなど多様な主体の協力が必要です。JCの皆様が中心となって開催されている「まつりえれこっちゃ宮崎」をはじめとするイベントは、子どもたちにとって素晴らしい夏の思い出になっています。しかし現在、人手不足や予算面の影響で地域行事の継続が困難になりつつあります。行政としても、こうした活動をいかにサポート



第72代理事長
川越 大輔
スローガン
UPDATE
～多様化する価値観を受け入れ変化に挑戦する～



第73代理事長
河野 幸治
スローガン
躍動
～利他の心を持ち未来を共創しよう～

していくかをしっかりと検討し、地域団体やＪＣＩの皆様との連携をさらに強化していきたいと考えています。

司会：川越大輔先輩、ＪＣと行政が連携し、子どもたちが主体的に学べる環境を作るためには何が必要でしょうか。

川越（大）：子どもたちには、学校教育だけでなく、地域の大人の生き方や多種多様な仕事に触れ、自ら考えて挑戦する経験が必要です。毎年実施している職場体験学習などを通じ、普段触れることのない職業観や考え方に接することが将来を考える契機となります。行政・地域・企業がそれぞれの強みを持ち寄り、子どもたちが多様な体験を重ねられる環境を整えることが、地域への愛着や将来の活躍へと繋がっていきます。

司会：清山市長、子どもたちが「宮崎で活躍したい」と思えるようにするために大切な視点は何でしょうか。

清山：子ども時代に、この宮崎でどれほど豊かな体験や思い出を作れるかが、非常に重要です。ＪＣが取り組む「グローバルチャレンジ推進事業」などは、まさに記憶に残る貴重な経験のモデルケースです。行政としても教育委員会や学校組織のみならず、ＪＣのような地域団体と手を携えて子どもたちの可能性を広げてまいります。

司会：河野先輩、地域や企業との関わりについて、ＪＣとしての具体的アプローチをお聞かせください。

河野：産官学の連携をさらに深めるべきです。私が理事長を務めた年度には、ＩＴ企業の経営者らを招き、中高校生がデジタル技術で社会課題解決のアイデアを提案する「ハッカソン」を開催しました。参加した学生からは「地元企業の経営者から直接指導を受ける機会は非常に貴重だった」との声を得ました。子ども目線からの社会課題解決策を後押しすると同時に、地元企業の魅力を知る接点を意図的に増やしていくことが重要です。

多文化共生・国際化

司会：続いてのテーマは「多文化共生・地域コミュニティ」です。清山市長、多文化共生の推進における課題と行政の取り組みについてお聞かせください。

清山：宮崎市内の外国人住民数はこの10年で倍増し、3,000人を超えました。在留外国人のみなさんは大切な地域社会のパートナーです。一方で、日本語学習の機会不足、医療・行政手続きのハードルなどの課題が存在します。市ではワンストップ相談窓口の開設や多言語アプリの運用で生活支援を行っています。同時に、地域住民との間で不要な摩擦を生ませないため、相互理解を促す丁寧な広報や説明を続けていきます。

司会：野村先輩、幼少期からの国際感覚の醸成や、ＪＣのネットワーク活用についてどうお考えですか。

野村：国際感覚は幼少期から育むことが理想的です。ＪＣの強みは、日本国内にとどまらず世界中に広がるネットワークを保有している点にあります。海外のＪＣ組織と連携した交流事業等を通じて、宮崎にいながら世界と触れ合える体験を提供できます。地域の子どもや若者に国際ネットワークを還元し、世界と宮崎を繋ぐ架け橋となることがＪＣの果たすべき重要な役割です。

司会：清山市長、国際化社会に向けた連携についてはいかがでしょうか。

清山：歴史的な円安等により、子どもたちが海外に渡航するハードルが上がっています。そうした中で、ＪＣが手掛けるインターナショナル事業やシンガポール派遣事業、また市で実施している中学生のマレーシア短期留学事業など、相互の取り組みを補完し合いながら相乗効果を高め、国際化に対応したまちづくりを進めたいと考えています。

司会：山崎理事長、ＪＣとしてどのように貢献していきますか。

山崎：世界約100の国・地域に及ぶＪＣＩ（国際青年会議所）のネットワークをフルに活用し、子どもや若者が異文化や多様な価値観に触れる場を創出します。国際交流を通じて得た視野や体験を地域へ還元し、「世界とつながる宮崎」「世界から選ばれる宮崎」の実現に寄与してまいります。



第74代 理事長
野村 翔悟
スローガン
全員力
～明るい未来への道を
全員で創ろう～



第75代 理事長
山﨑 隆太郎
スローガン
真価を示す
PLUS ULTRA

地域コミュニティの活性化

司会：続いて「地域コミュニティの活性化」です。清山市長、自治会加入率の低下をはじめとする人と人とのつながりの希薄化について、現状をどう捉えられていますか。

清山：宮崎市内の自治会加入率はついに50％を下回り、防災面でも懸念される状態となっています。集合住宅へのアプローチや、自治会自身の構造改革など、行政だけの広報や取り組みでは限界に直面しています。地域活性化と防災力の向上に向けて、ぜひＪＣの皆様の若い力と行動力をお借りし、加入率向上やコミュニティの再構築を共に進めていきたいと考えております。

司会：川越英和先輩にお伺いいたします。これからどのような地域コミュニティを目指し、その実現に向けてどのような役割を果たしていくべきでしょうか。

川越（英）：青年会議所は、地域の課題に対して「誰かがやる」のではなく「自ら率先して行動する人」を一人でも多く増やすことを目的としています。ＮＥＸＴ５においても「人づくり」を「地域づくり」の原点と位置づけています。事業や運動を通じて挑戦する機会をつくり、地域や企業など様々な分野で活躍するリーダーを育てることで、自ら考え行動し周囲を巻き込みながら未来を切り開く力を地域に根付かせていきたいと考えております。

司会：清山市長にお伺いいたします。人と人とのつながりをどのように次世代へ受け継いでいくべきだとお考えでしょうか。

清山：単に「宮崎市民である」という共通点だけでは、愛着や帰属意識としては弱くなりがちです。人と人との強い結びつきを次世代に残すためには、行政の枠組みだけでなく、自治会や地域団体、そしてＪＣのような青年経済団体が果たす役割が非常に大きいと感じています。

司会：植松先輩、青年会議所として人とのつながりを次世代へどう受け継いでいきますか。

植松：次の世代へ受け継ぐべきものは「地域を愛する気持ち」だけでなく、「地域のために行動し成長した人が、今度は地域を支える側になる」という好循環です。宮崎の可能性を信じ、自ら一歩を踏み出す人を増やすことこそが私たちの使命です。



防災・持続可能な地域づくり

司会：「防災・持続可能な地域づくり」についてお伺いいたします。南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、清山市長へご質問させていただきます。災害に強いまちづくりにおいて、行政と民間の連携についてどうお考えでしょうか。

清山：大規模災害時には行政職員自身も被災者となるため、行政の対応だけでは追いつきません。最も力を発揮するのは「自助・共助」と日頃の備えです。市民の皆様や民間企業、自治会単位で、ハザードマップのリスク確認、防災備蓄の確保、避難訓練などに日常から取り組んでいただくことが不可欠であり、ＪＣの皆さんにもそうした地域活動へのご理解とご協力を期待しております。

司会：川越大輔先輩にお伺いいたします。青年会議所だからこそ果たせる防災・減災の役割とは何でしょうか。

川越（大）：能登半島地震の際も実感しましたが、青年会議所は全国各地に身軽でスピード感のある組織ネットワークを持っています。ＪＣとして最も貢献できるのは「平時からの備え」です。各市町村や県内の青年会議所同士で防災協定を結び、有事に即座に連携行動を起こせる体制を平時から整えていることが、ＪＣならではの強みです。

司会：清山市長、災害に強いまちとは「インフラ等の設備面」と「人のつながり」のどちらが重要だとお考えでしょうか。

清山：両方が不可欠です。津波避難施設の整備などハード面の対策は前提として必要ですが、大規模災害時にはハードだけでは防ぎきれない被害が発生します。その際、住民同士の助け合いや、行政・経済団体・地域団体の連携によって迅速かつ正確な情報を伝え人命救助につなげるソフト面が重要になります。日頃から両面を強化していく必要があります。

司会：河野先輩にお伺いいたします。災害対応力の高い宮崎を目指すには、平時からどのような備えや連携が必要でしょうか。

河野：インフラ整備には予算と時間がかかりますので、JCの立場としては全国や県内の自衛的なJCネットワークを最大限活用すべきだと考えています。ただし、防災はJC単体で完結できるものではありません。「自助・共助・公助」の三位一体となり、行政、社会福祉協議会、そして青年団体が平時から密に連携し合える関係性を構築しておくことが極めて重要です。近隣では熊本地震等の大地震が発生しましたが、幸いにも現在の宮崎では大きな災害が起きておりません。しかし、実際に災害が起きてからレジリエンス（復旧・復興力）を高めようとしても遅く、初動が極めて重要になります。だからこそ平時のうちから、顔の見える関係性と具体的な連携体制をどれだけ構築しておけるかが決定的に重要だと考えております。

司会：ありがとうございます。災害が起きてから動くのではなく、平時から行政・企業・地域団体が連携し、互いの役割を共有しておくことの大切さを再確認いたしました。この平時における強みの掛け合わせは、防災のみならず様々な地域課題の解決にも通じる視点です。

行政と青年会議所が描く宮崎の未来

司会：それでは、最後のテーマとして「行政と青年会議所が描く宮崎の未来」についてお伺いしていきます。清山市長、総合計画で示す将来像の実現に向けて、青年会議所のような民間団体には、行政にはないどのような役割を期待されていますか。

清山：今回の対談を通じて、皆さんが本市の総合計画を深く読み込み、地域課題に真摯に向き合おうとされている姿勢に大変感銘を受けました。行政が作成する計画や制度だけでは、子どもや若者は宮崎に留まりません。そこに魂と熱意を吹き込む生身の人間の存在が不可欠です。ガッツあふれる青年経済人の集まりであるJCの皆さんが、宮崎に魅力的な働く場を創出し、地域と深く関わりながら、私たちと一体となってまちづくりに取り組んでいただくことを心から期待しております。

司会：野村先輩にお伺いいたします。NEXT5は第六次総合計画を参考に策定されていますが、JCは行政と同じ未来を目指しながら、どのような価値を地域へ提供できるとお考えでしょうか。

野村：NEXT5は、行政と同じ方向を向きつつも、JCだからこそ起こせる行動を示した指針です。私たちは、行政の手が届きにくい市民・企業・地域団体をつなぎ合わせ、新たな挑戦や共創を生み出すことができます。「地域課題を誰かが解決する」のではなく「地域全体で解決する」構造へと変えていく。その橋渡し役を担いながら、市民・行政・企業が力を合わせるまちづくりを実践してまいります。

まとめ・メッセージ

司会：それでは最後に、清山市長より市民の皆様、そしてJCメンバーへメッセージをお願いいたします。

清山：まず改めまして、宮崎青年会議所の設立75周年、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり宮崎市の発展、青少年育成、地域経済の振興にご尽力されてきた歴代理事長、役員、そしてメンバーの皆様に深く感謝いたします。

本市のアンケートでも、約8割の中高生が「宮崎に残りたい」という想いを持っていることが分かっています。彼らが夢と希望を持って宮崎で暮らし、働ける環境を作れるかどうかは、行政と民間企業のみなさんの手にかかっていると思います。

JCの皆さんには、貪欲にビジネスを成長させて若者の雇用を生み出し、あるいは起業や会社設立を後押しするような強い刺激を地域に与え続けてほしいと思います。さらに、地域の若いリーダーとして自ら楽しみながら自治会や地域活動に関わり、その頼もしい背中を若い世代に見せることで、持続可能な宮崎市を築いていただきたいです。

私たちも総合計画に沿って行政としての責任を果たしてまいります。未来を切り開くパートナーとして、共に笑顔で前進していきましょう。本日は誠にありがとうございました。

司会：ありがとうございます。最後に、宮崎青年会議所を代表して、第75代理事長・山﨑隆太郎君よりメッセージをお願いいたします。

山﨑：清山市長、本日は誠にありがとうございました。私ども青年会議所が75周年を迎えられたのは、歴代理事長をはじめとする先輩諸兄姉のご尽力、そして市長をはじめとする行政や市民の皆様の温かいお支えがあったからこそです。

宮崎市の第六次総合計画には、今後宮崎があるべき姿が明確に示されています。私たちJCはリーダーを育成する組織であり、直接的に街のインフラや条例を作ることはできませんが、志を持ったリーダーを育てることで、宮崎を持続的に良くし続けられる人材を輩出したいと考えています。

総合計画を大きく参考にさせていただき落とし込んだ「NEXT5」は、私たちJCが向かうべきこれからの5年間の確かな道しるべです。計画は策定して終わりではありません。行政の皆様と手を携えながら自ら行動を起こし、地域の皆様と共に宮崎の明るい未来を切り開いてまいります。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申しあげます。

司会：これをもちまして、対談を終了させていただきます。皆様、ありがとうございました。

清山市長、
歴代理事長の皆様
ありがとうございました



OBからのメッセージ

～現役JCの皆さんへ～

サボテン

私は青年会議所に３年間在籍しました。
当時は「入会することに意味がある」と、少し甘い考えを持っていたように思います。しかし、多くの仲間と汗を流し、さまざまな事業に参加する中で、人とのつながりや、誰かのために動くことの大切さを学びました。
一方で、今でも後悔しているのが、地域を越えて参加する事業です。当時はほとんど参加していませんでしたが、唯一参加した全国大会の卒業式で、各地から集まるJCメンバーと、それを支える大勢の仲間の姿に圧倒されました。
「この一日のために、たくさんの人が長い時間をかけて準備しているんだ」と感じ、JCの活動には、自分が見えていないところで多くの人の努力とつながりがあることを初めて実感しました。
そして数年が経ち、まつりえれこっちゃみやざきの運営に携わる機会をいただき、あの時感じたことがようやく分かった気がします。
JCは、入会することが目的ではなく、仲間と出会い、汗を流し、誰かのために行動することで、自分自身が成長できる場所なのだと思います。
だからこそ、これからJCに関わる皆さんには、ぜひ一歩外へ出て、多くの仲間と出会い、さまざまな経験をしてほしいと思います。